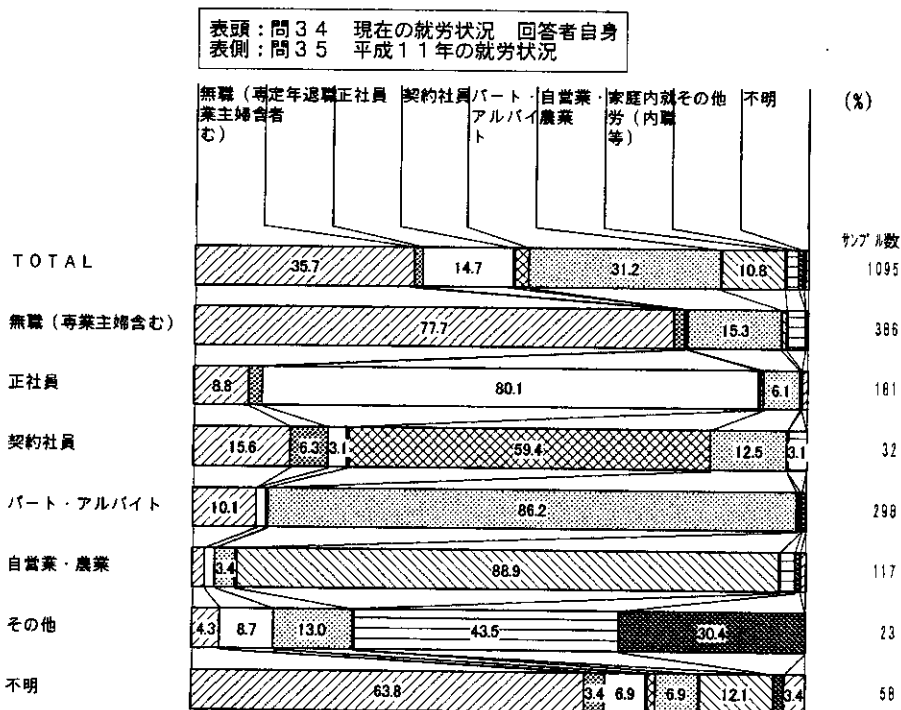
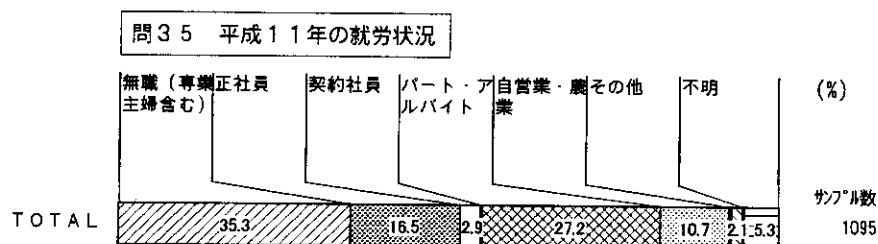


職種を変えることは少ない傾向がある。大きな変化はあまりないが、強いて言うならば、現在よりも平成11年の方が『正社員』が多く、『パート・アルバイト』が少ない。『正社員』から『パート・アルバイト』または『定年退職者』に移ったのであろう。週の就労日数は5～6日が多く、1日当たりの平均労働時間は4～8時間というケースが多いようである。週の就労日数は5～6日で、1日当たりの平均労働時間は4～8時間が多いことは現在と変わらないが、割合は多く現在よりもたくさん働いていたことがわかる。

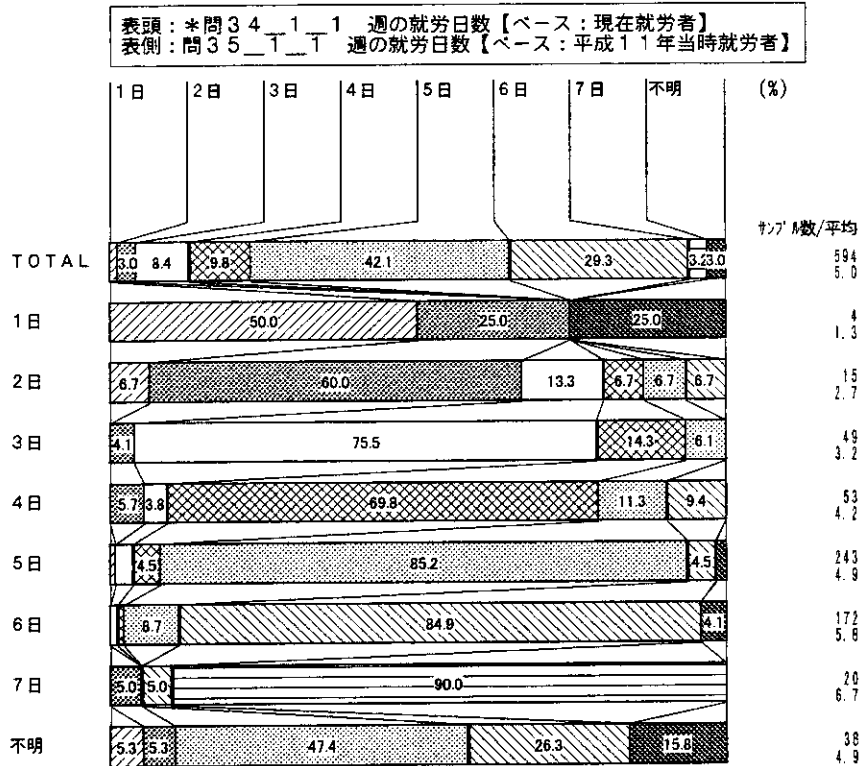
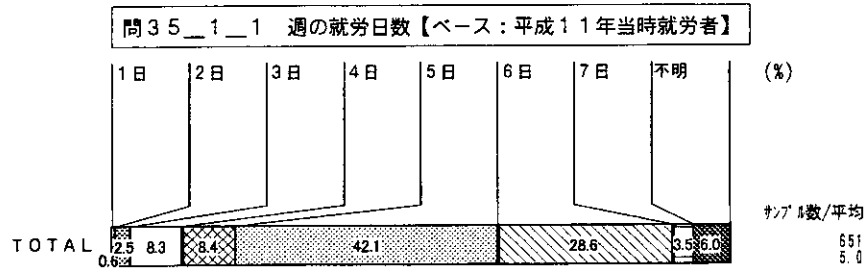
<平成11年当時の就業状況と現在の就業状況>



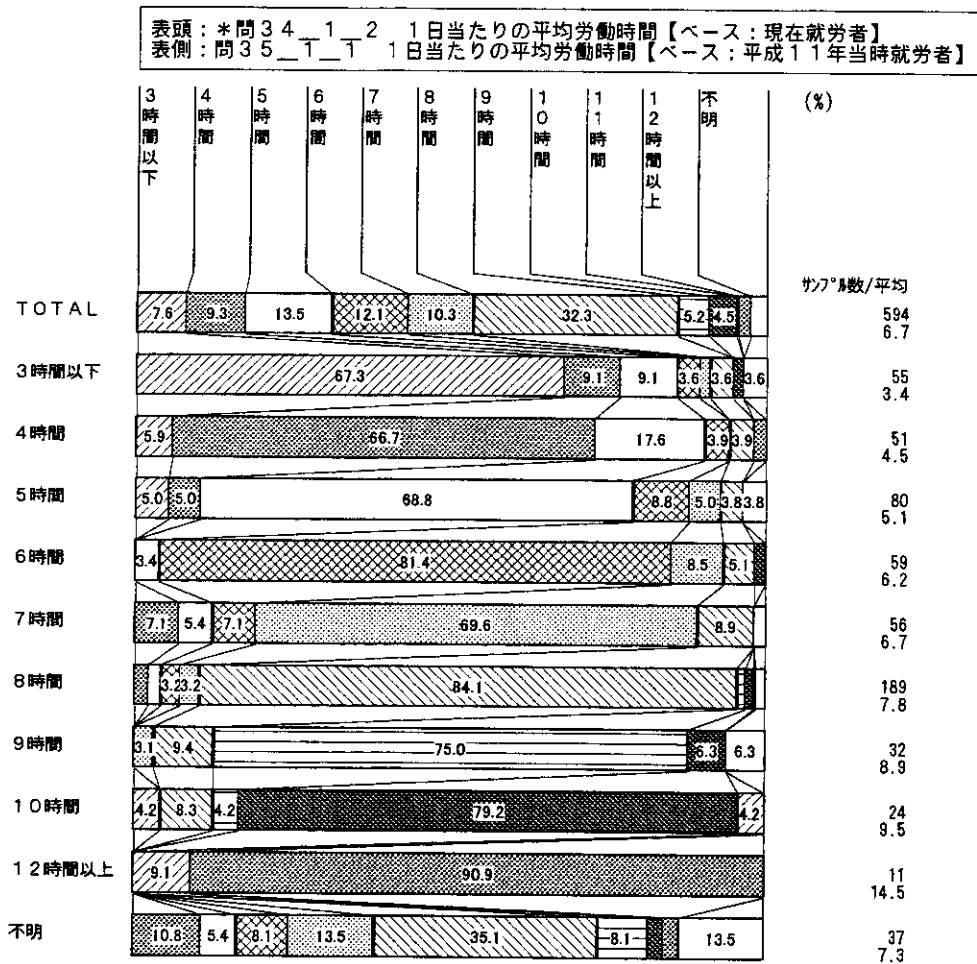
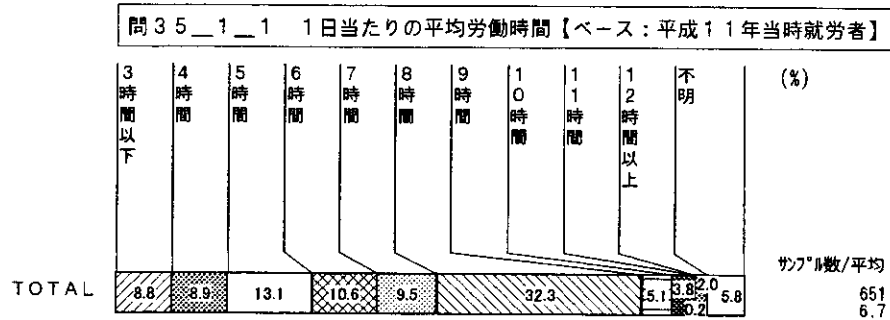
週の就労日数は変わっていないか、変わっていても1日増える程度で、トータルの平均はどちらも週5日である。

1日当たりの平均労働時間についてもほとんど変わっておらず、トータルの平均はどちらも6.7時間である。

<平成11年当時の就業日数と現在の就業日数>



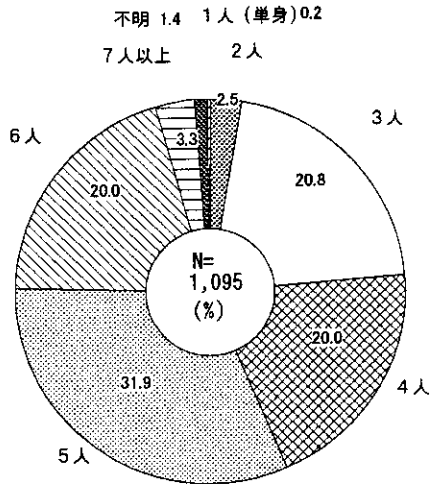
<平成11年当時の1日当たり就業時間と現在の1日当たり就業時間>



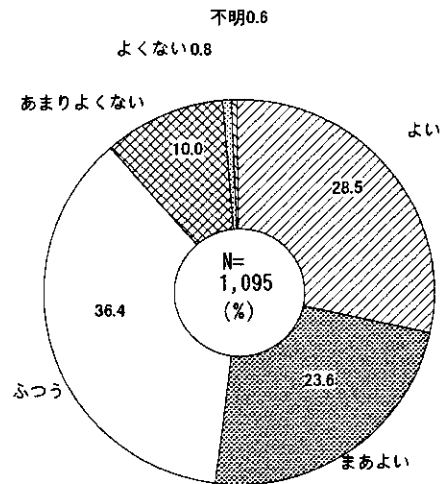
同居家族は、全員で3～6人が多い。健康状態は『ふつう』以上の者がほとんどで、特に問題がある者は少ない。

住居形態の多くは一戸建ての持ち家であり、これを好む傾向が強いと考えられる。

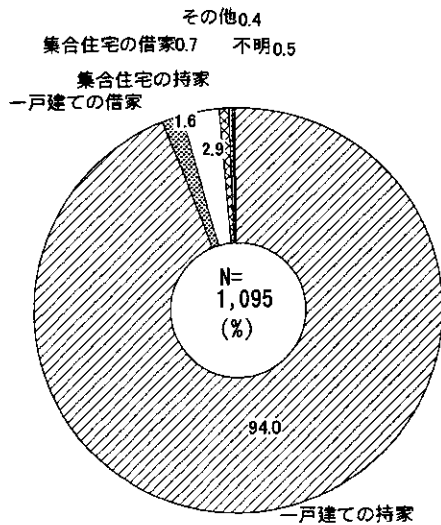
<同居家族>



<あなたの現在の健康状態>

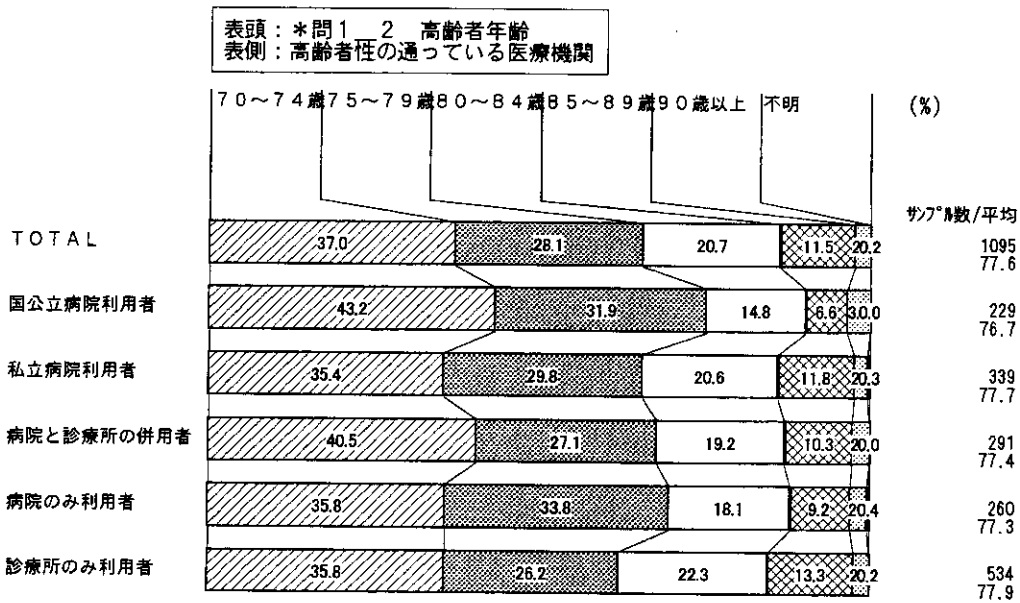
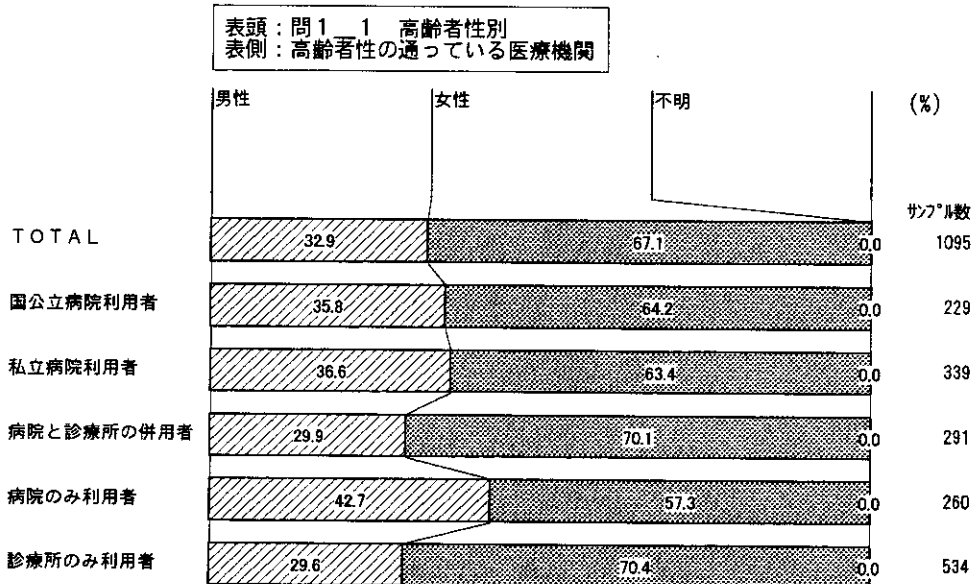


<住居形態>



医療機関に通う高齢者は、女性が男性の2倍以上である。通っている医療機関を性別で見ると、女性は病院と診療所との併用・診療所のみ利用の割合が多くなっている。

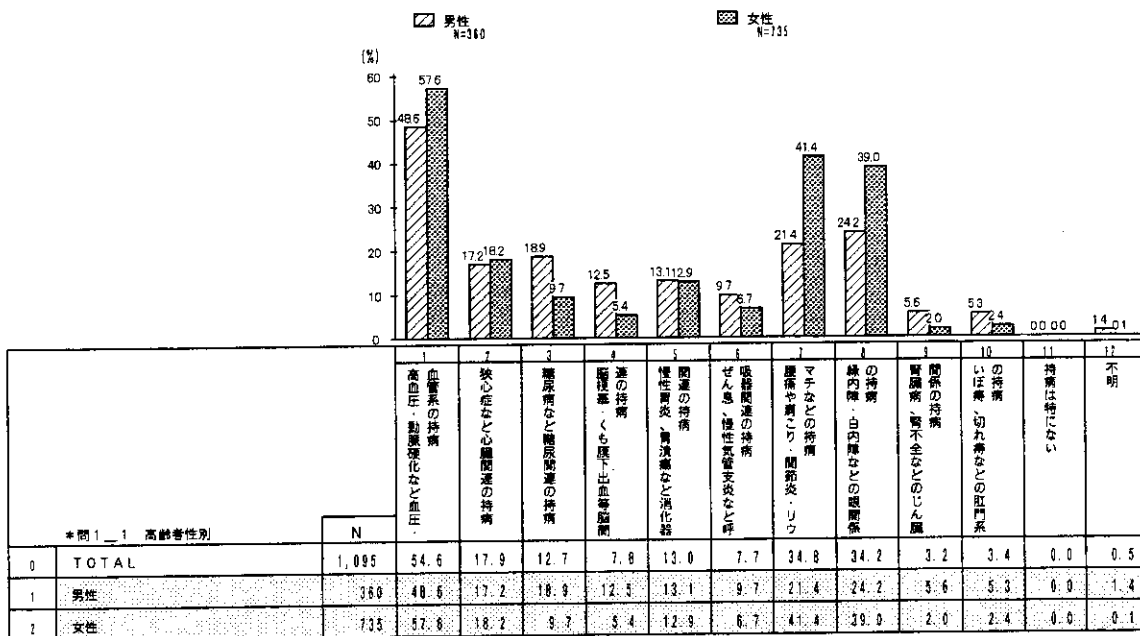
さらに年齢別で見ると、私立病院や病院または診療所のみ利用が70代前半では比較的少ないが、年齢が高くなるにつれ増える傾向がある。



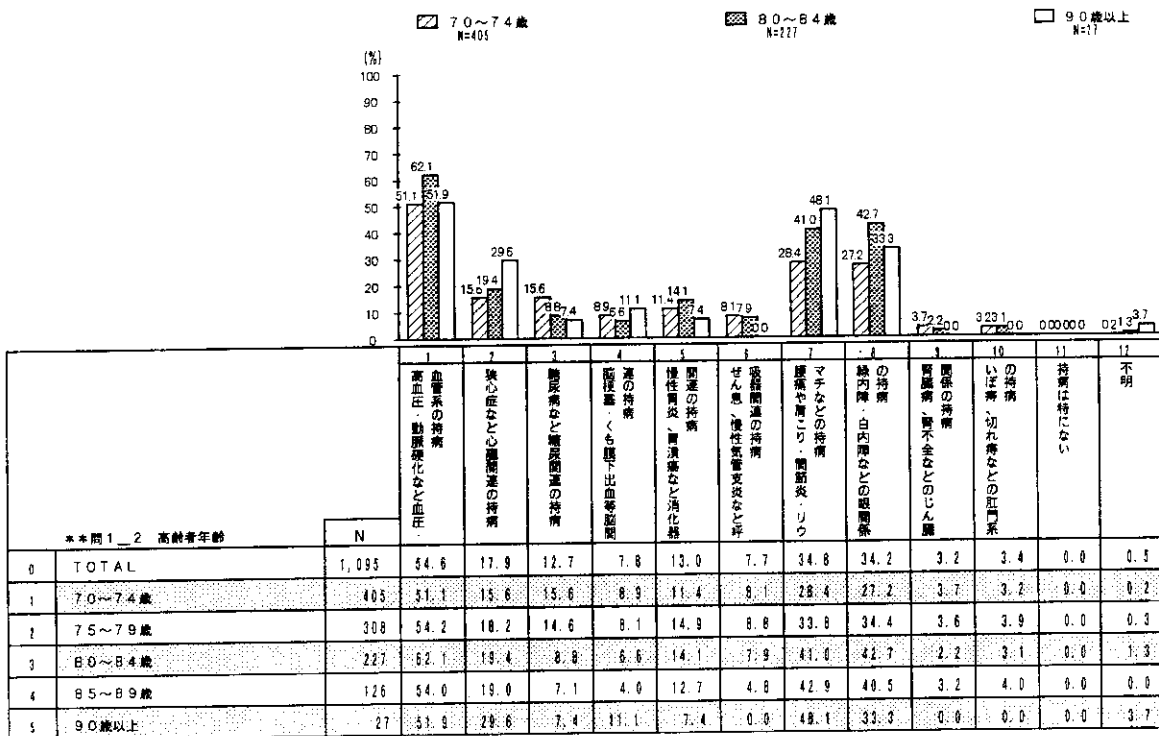
持病の割合は、女性では『腰痛や肩こり・関節炎・リウマチ』、『眼関係』が高く、男性では『糖尿関連』、『脳関連』が高い。

年齢別での持病の割合は、『心臓関連』や『腰痛や肩こり・関節炎・リウマチ』が年齢とともに増え、逆に『糖尿関連』は減っている。

表頭：問2 高齢者の持病 (M. A)
表例：問1_1 高齢者性別

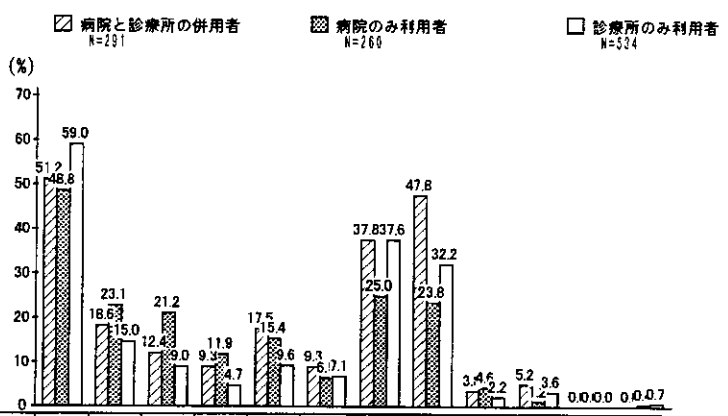


表頭：問2 高齢者の持病 (M. A)
表例：*問1_2 高齢者年齢



持病別に通っている医療機関をみると、『心臓関連』や『糖尿関連』、『脳関連』は病院へ通う割合が高いが、『腰痛や肩こり・関節炎・リウマチ』や『眼関係』では、病院へ通う割合は低くなっている。

表頭：問2 高齢者の持病 (M, A)
表例：高齢者の通っている医療機関

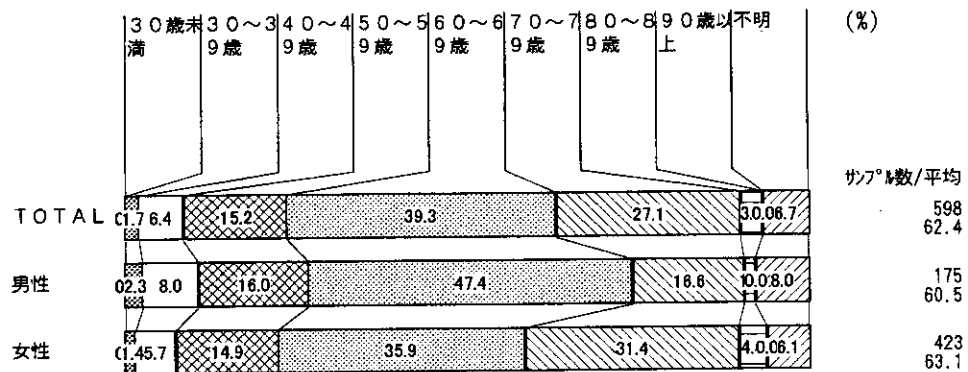


*高齢者性の通っている医療機関	N	持病別に通っている医療機関 (%)											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
0 TOTAL	1,095	54.6	17.9	12.7	7.8	13.0	7.7	34.8	34.2	3.2	3.4	0.0	0.5
1 国公立病院利用者	229	47.6	20.1	17.5	10.5	17.0	10.0	34.1	35.4	6.1	3.1	0.0	0.0
2 私立病院利用者	339	51.3	21.2	16.2	10.6	15.6	6.2	31.3	38.3	3.5	2.9	0.0	0.3
3 病院と診療所の併用者	291	51.2	18.6	12.4	9.3	17.5	9.3	37.8	47.8	3.8	5.2	0.0	0.0
4 病院のみ利用者	260	48.8	23.1	21.2	11.9	15.4	6.5	25.0	23.8	4.6	1.2	0.0	0.4
5 診療所のみ利用者	534	59.0	15.0	9.0	4.7	9.6	7.1	37.6	32.2	2.2	3.6	0.0	0.7

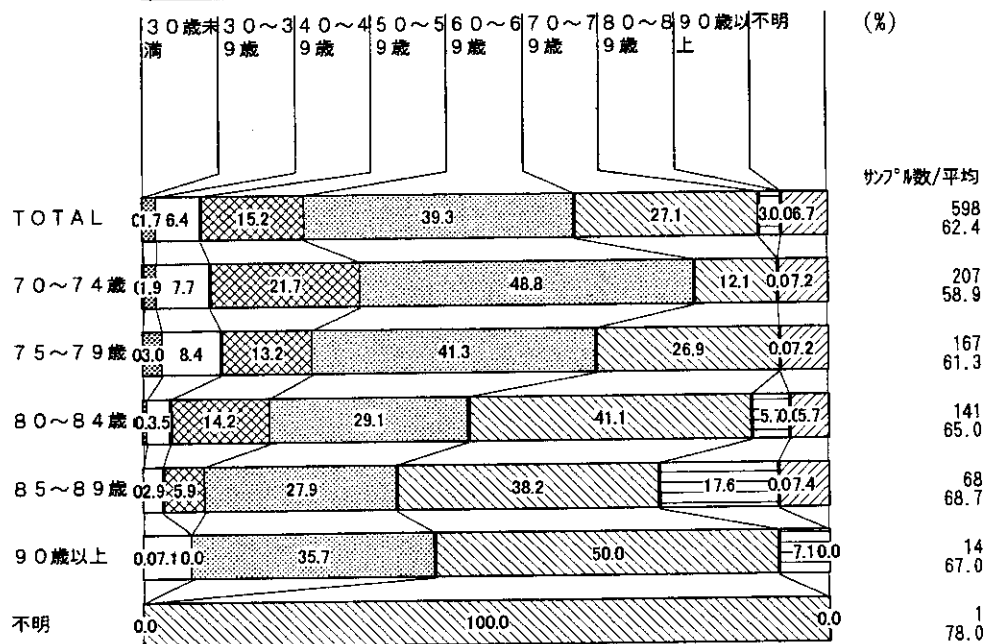
持病が始まる年齢は、全体的に男性の方がやや早い傾向がある。呼吸器関連と腎臓関係の持病以外すべての持病で当てはまっている。

年齢別では、年齢層が低いほど持病の始まる年齢が早い。徐々に持病の開始年齢は早まっている。

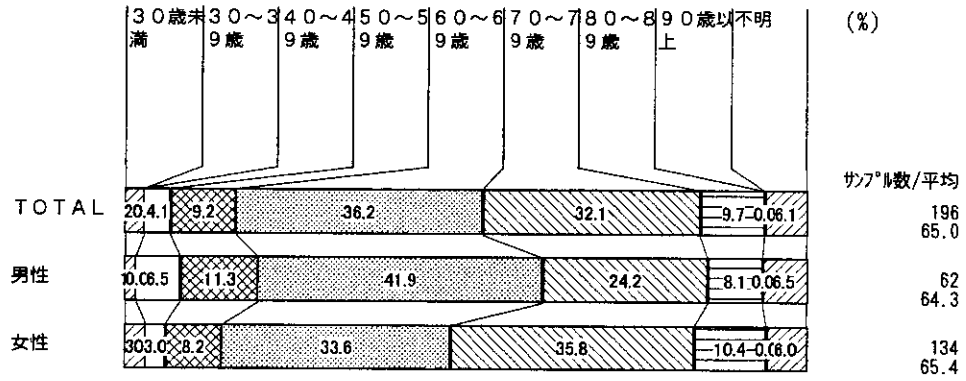
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 高血圧・動脈硬化など血圧・血管系の持病
表側：問1_1 高齢者性別



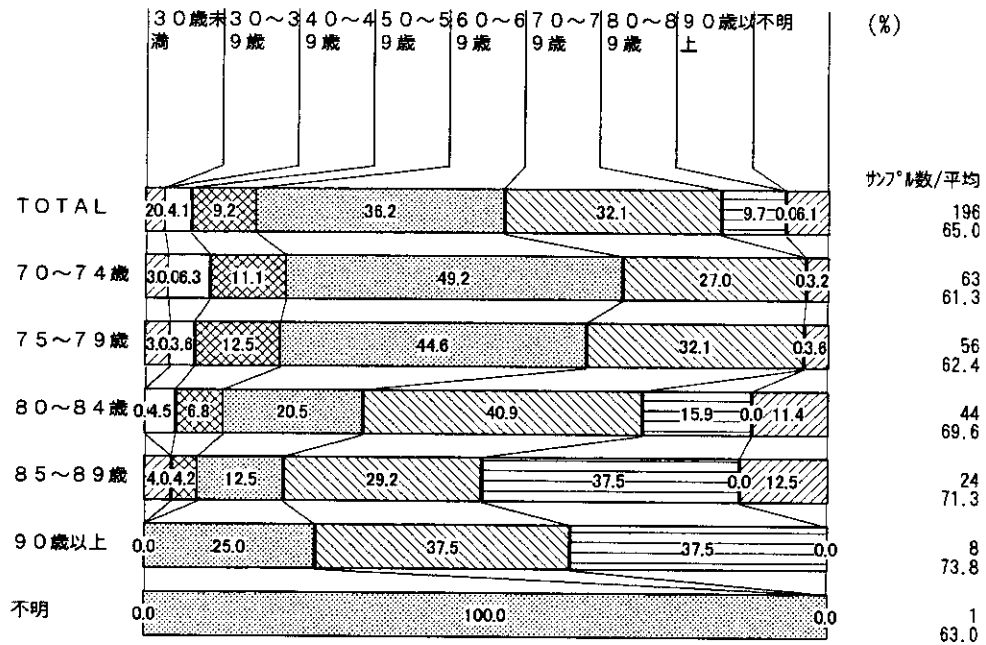
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 高血圧・動脈硬化など血圧・血管系の持病
表側：*問1_2 高齢者年齢



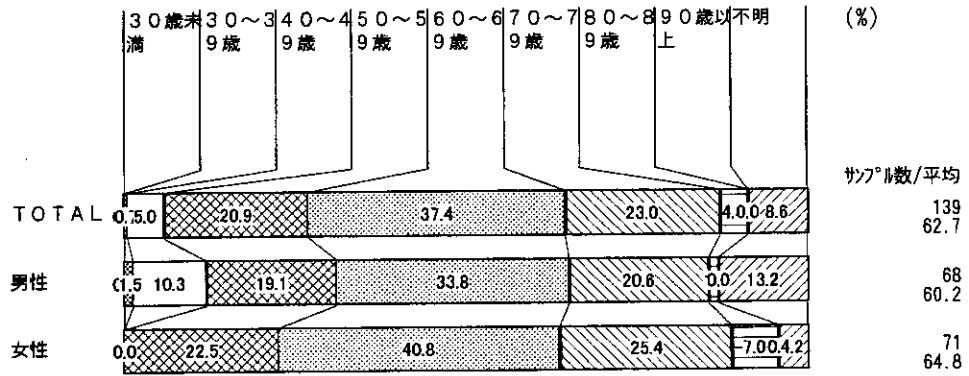
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 狭心症など心臓関連の持病
 表例：問1_1 高齢者性別



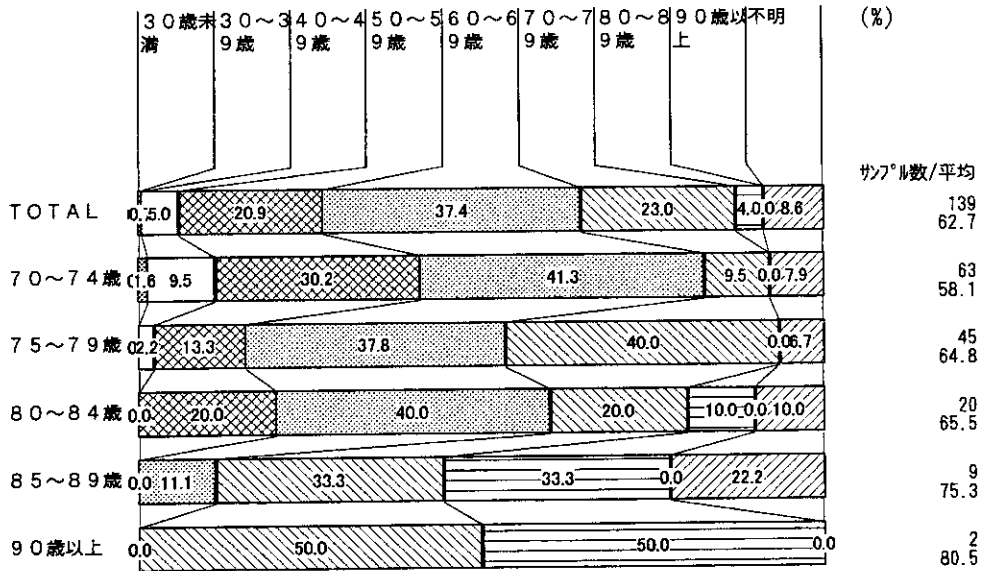
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 狭心症など心臓関連の持病
 表例：*問1_2 高齢者年齢



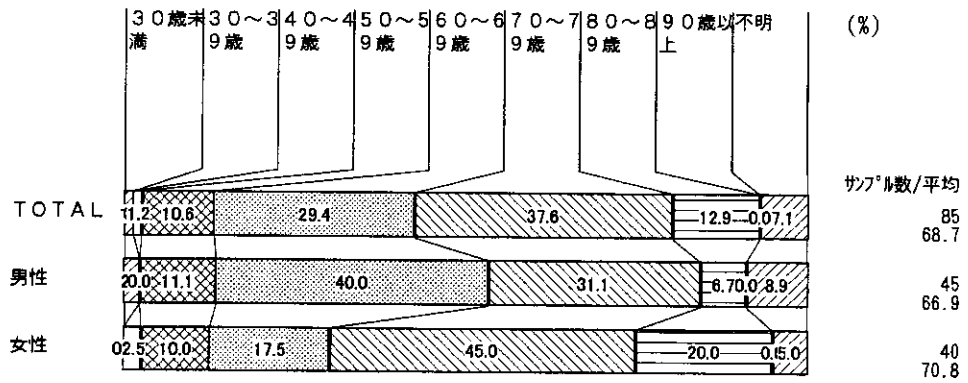
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 糖尿病など糖尿関連の持病
 表側：問1_1 高齢者性別



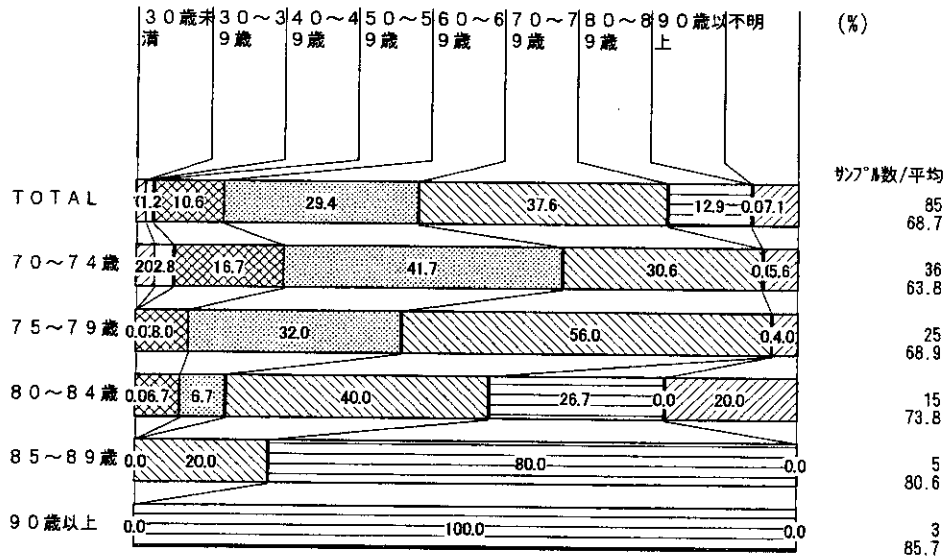
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 糖尿病など糖尿関連の持病
 表側：*問丁_2 高齢者年齢



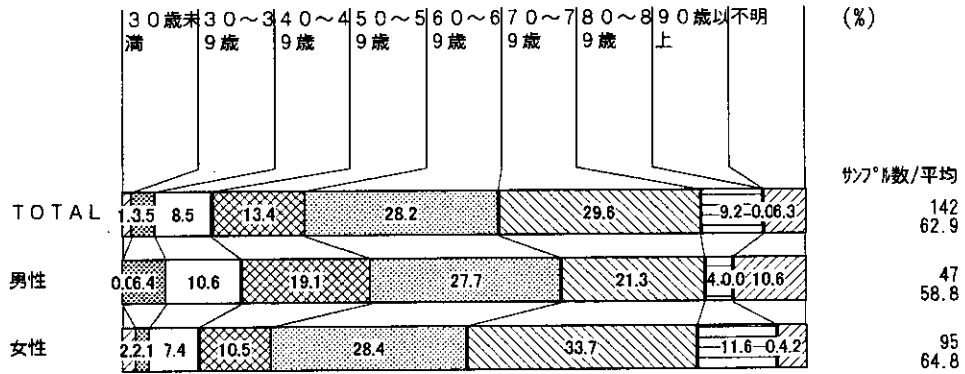
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 脳梗塞・くも膜下出血等脳関連の持病
 表側：問1_1 高齢者性別



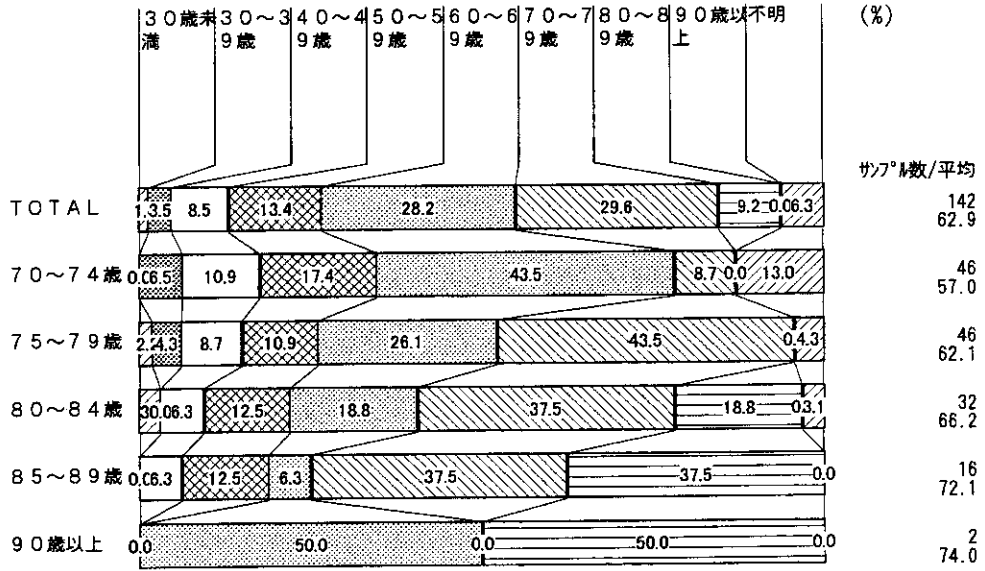
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 脳梗塞・くも膜下出血等脳関連の持病
 表側：*問1_2 高齢者年齢



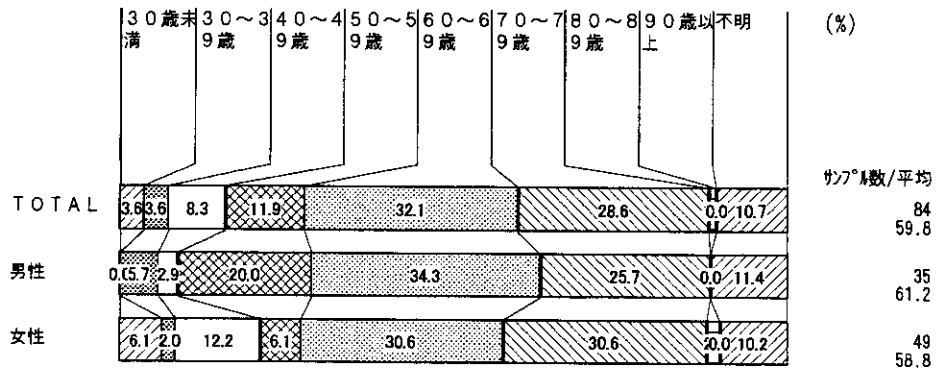
表頭：問2__1 持病が始まった年齢 慢性胃炎、胃潰瘍など消化器関連の持病
 表側：問1__1 高齢者性別



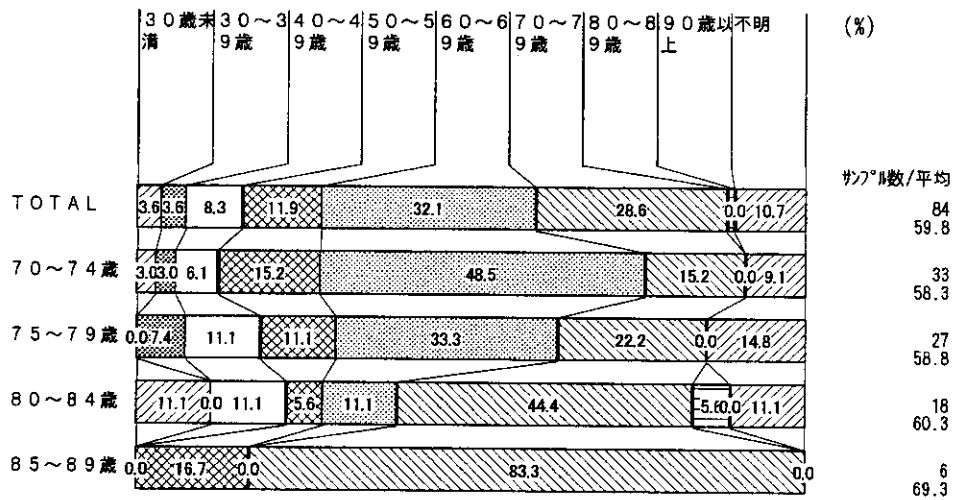
表頭：問2__1 持病が始まった年齢 慢性胃炎、胃潰瘍など消化器関連の持病
 表側：*問1__2 高齢者年齢



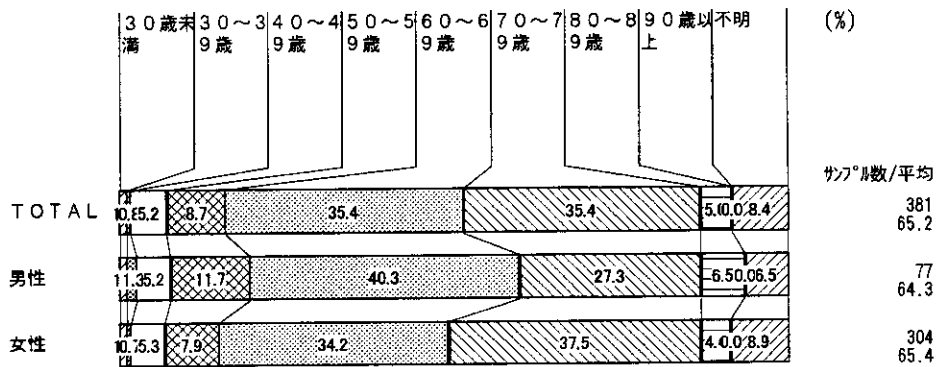
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 ぜん息、慢性気管支炎など呼吸器関連の持病
 表側：問1_1 高齢者性別



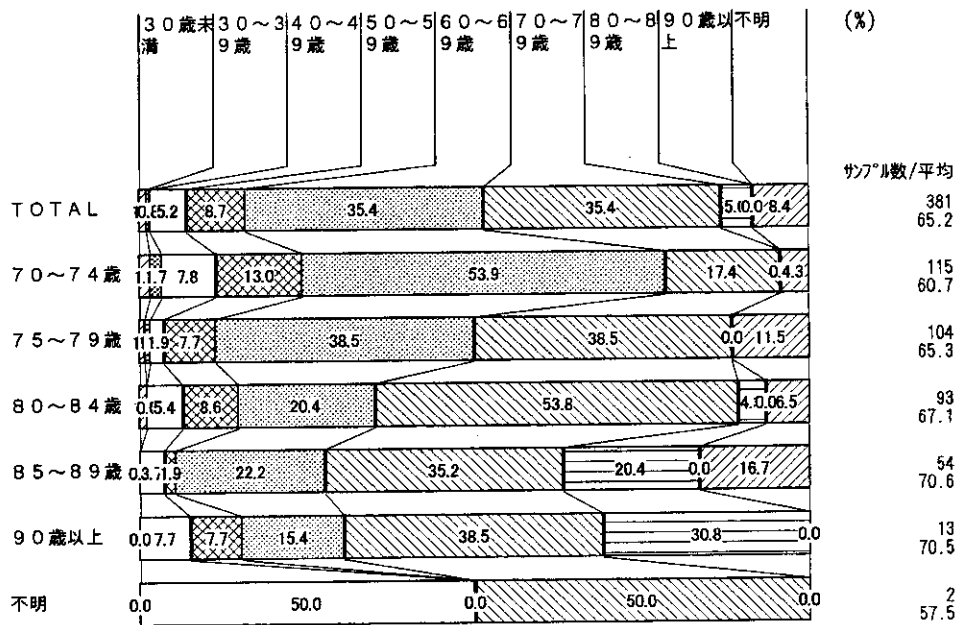
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 ぜん息、慢性気管支炎など呼吸器関連の持病
 表側：*問1_2 高齢者年齢



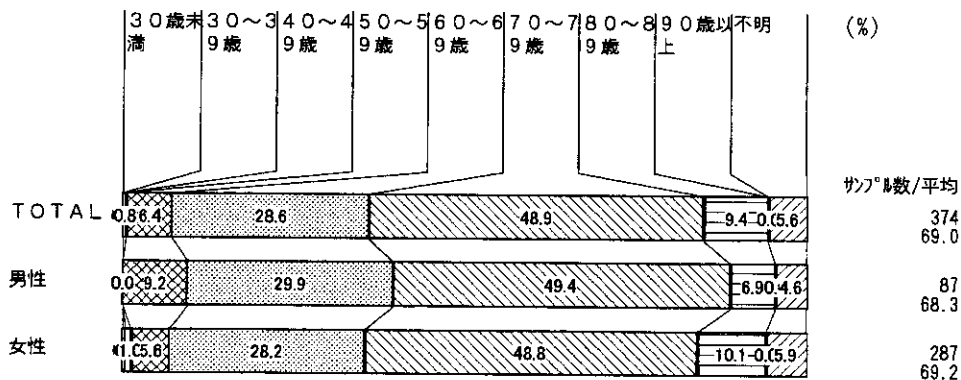
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 腰痛や肩こり・関節炎・リウマチなどの持病
 表側：問1_1 高齢者性別



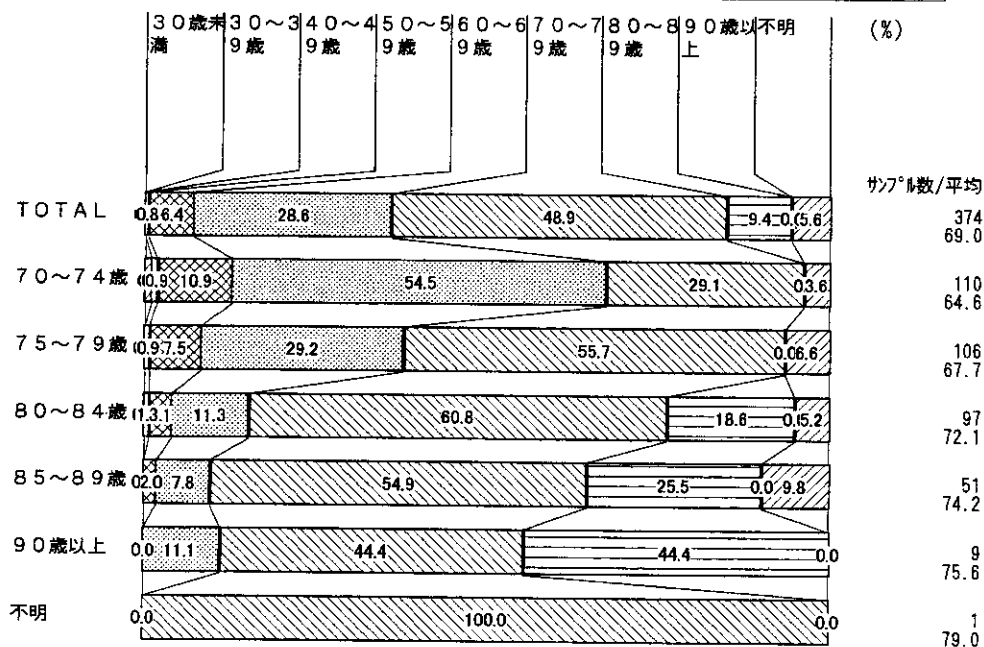
表頭：問2_1 持病が始まった年齢 腰痛や肩こり・関節炎・リウマチなどの持病
 表側：*問T_2 高齢者年齢



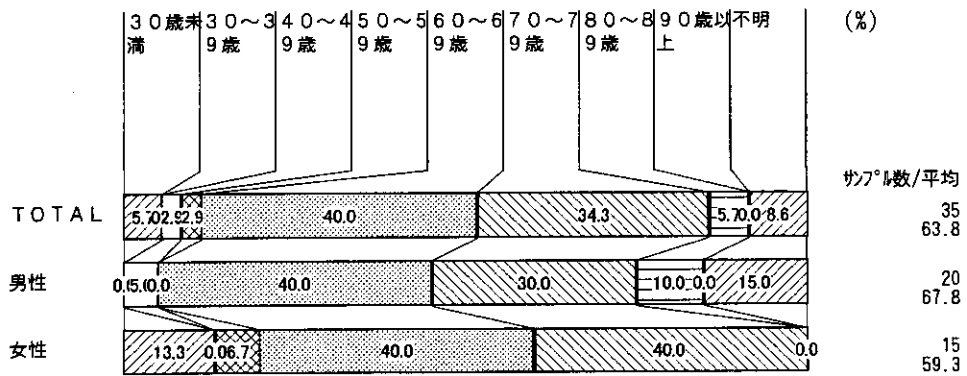
表頭：問2__1 持病が始まった年齢 緑内障・白内障などの眼関係の持病
 表側：問1__1 高齢者性別



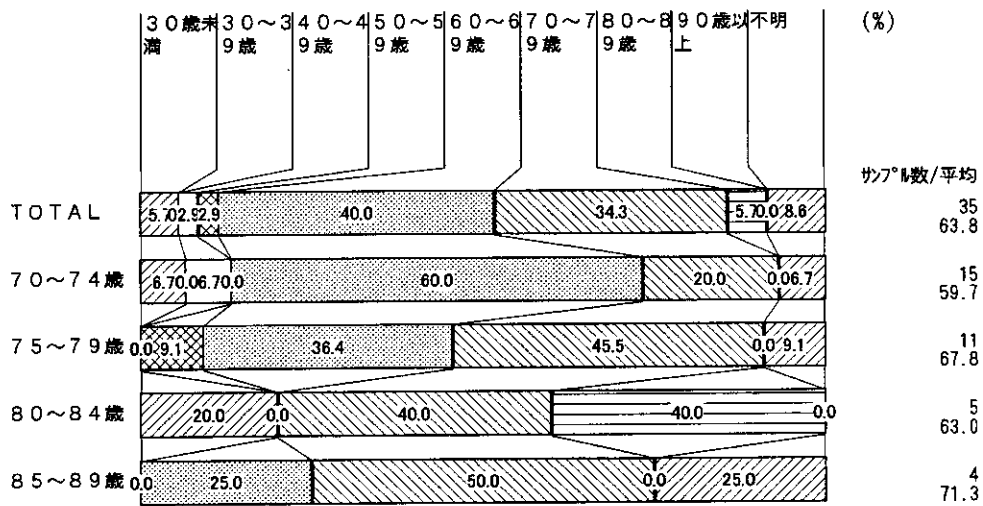
表頭：問2__1 持病が始まった年齢 緑内障・白内障などの眼関係の持病
 表側：*問1__2 高齢者年齢



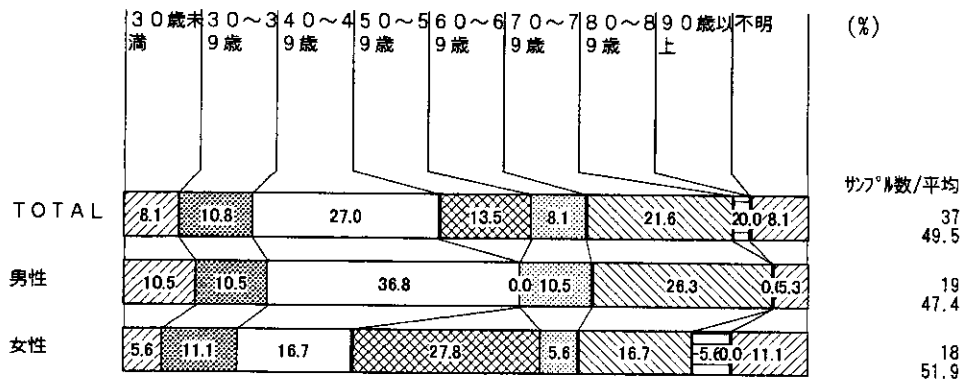
表頭：問2__1 持病が始まった年齢 腎臓病、腎不全などのじん臓関係の持病
 表側：問1__1 高齢者性別



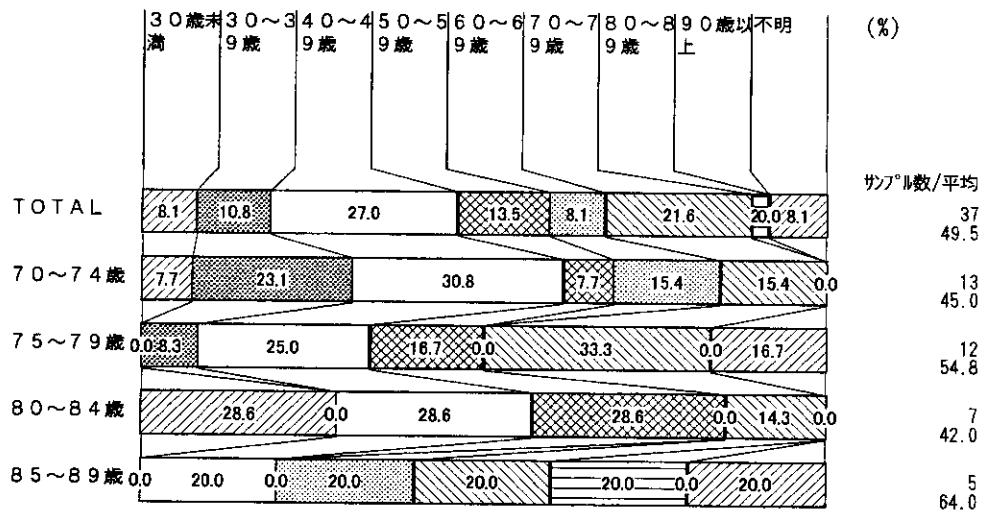
表頭：問2__1 持病が始まった年齢 腎臓病、腎不全などのじん臓関係の持病
 表側：*問1__2 高齢者年齢



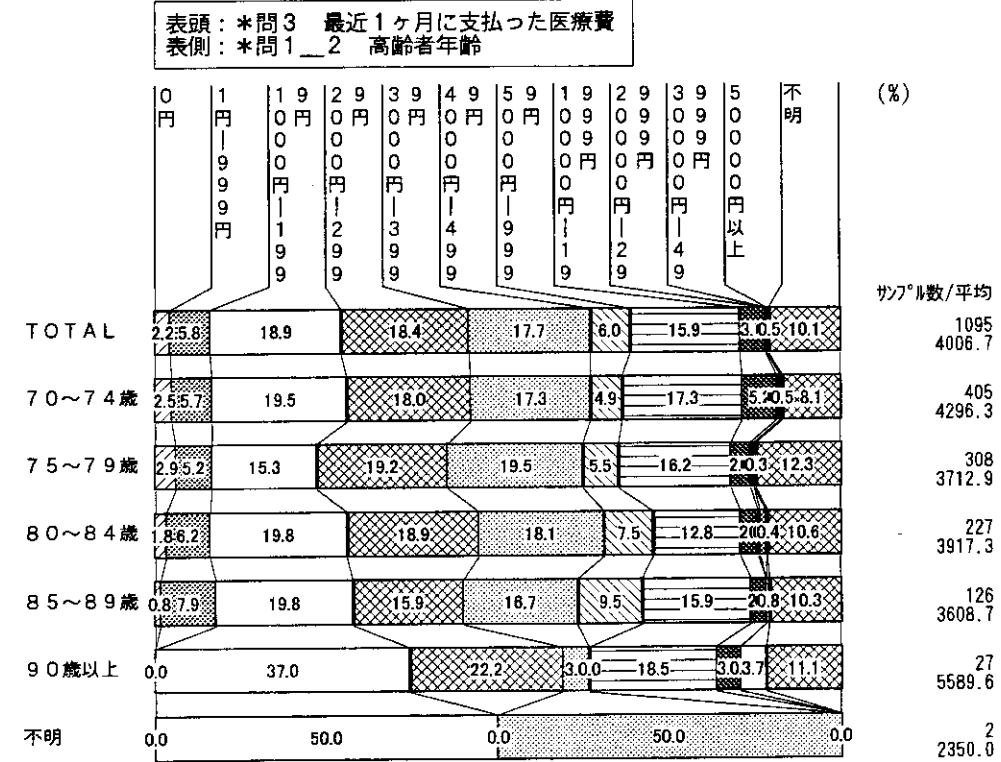
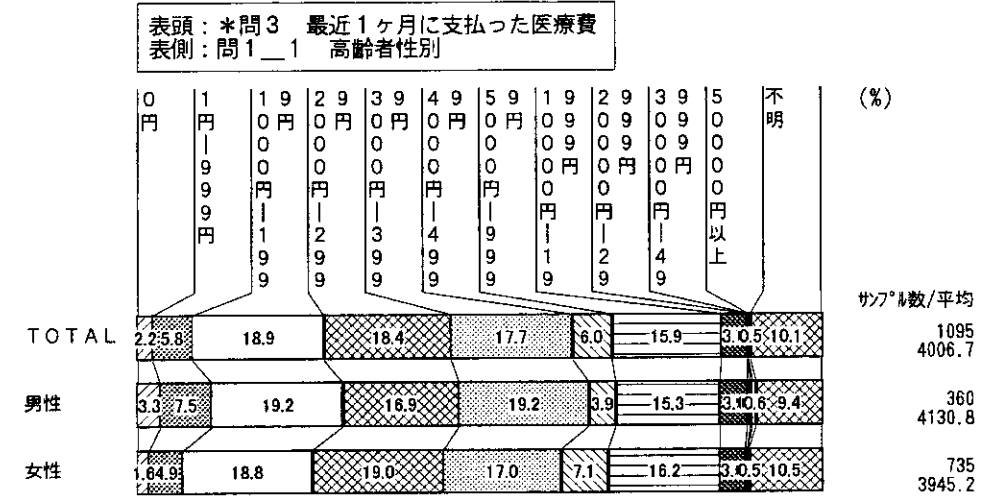
表頭：問2__1 持病が始まった年齢 いぼ痔、切れ痔などの肛門系の持病
 表側：問1__1 高齢者性別



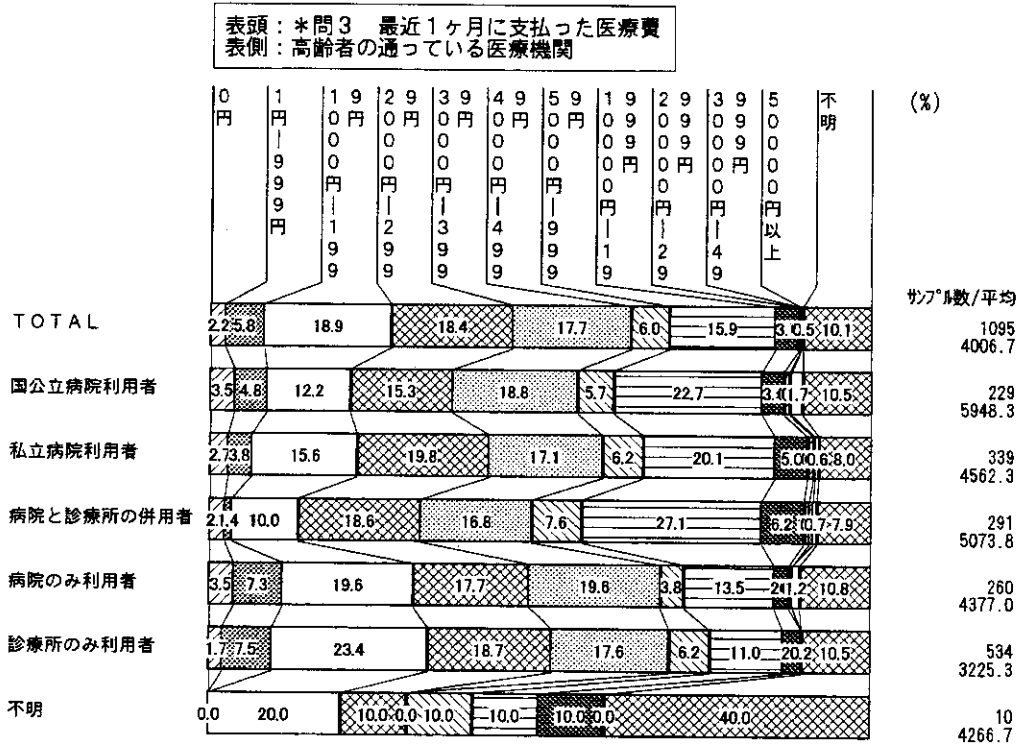
表頭：問2__1 持病が始まった年齢 いぼ痔、切れ痔などの肛門系の持病
 表側：*問1__2 高齢者年齢



最近 1 ヶ月で支払ったとされる医療費は、男性の方が大きい。また年齢層の低いほど支払う医療費は高い傾向がある。ただし、90歳以上となると医療費は急に高くなる。



最近1ヶ月に支払ったとされる医療費は、国公立病院と私立病院の利用者を比較すると、国公立の方が高く、約1500円程度の差が出た。また、診療所のみと病院のみの利用者間では診療所の方が安く、約1100円程度の差があるが、診療所と病院の併用者はさらに700円程度高くなり、診療所利用者と比べて約1800円高い。



最近 1 ヶ月に支払ったとされる医療費は、大まかな見方では世帯収入が多くなるほど増えている感じがあるが、よく見ると必ずしもそうではない。

表頭：*問3 最近1ヶ月に支払った医療費
表側：世帯収入分類

